

画像解析で収穫予想

鳥取県が技術実証報告会 6事例を紹介

ようやく19年からスマート農業の実証を進める。会場では企業による先端技術のカタログ展示もあり、参加者らは関心を寄せていた。

【鳥取中央】県は倉吉市で16日、2020年度スマート農業技術実証報告会を開き、ドローン（小型無人飛行機）で撮影した画像解析やアシストスーツの活用など6事例を報告した。生産者、農業団体、行政など110人が参加。スマート農業の技術や情報を共有した。

県園芸試験場がドローン空撮画像解析によるブロッコリーの収穫予測技術を発表。予測では画像から株数と平均葉枚数を割り出し、葉枚数の解析で収穫日を予測。4圃場（ほじょう）での検証で

は、実際の収穫日との誤差は1日以内で、葉枚数による収穫日予測は、収穫約50日前から可能と報告した。

県は、ロボットや情報

通信技術（ICT）を活用したスマート農業を取り入れ、担い手不足の解消、技術継承に力を入れ

2. ブロッコリー収穫予測技術 -1

鳥取県園芸試験場ではブロッコリー収穫予測のため試験研究を実施。秋冬作における早生品種「おはよう」（サカタのタネ）について、生育を気温で説明する方法で、収穫予測技術を確立。葉枚数か花蕾径が分かれば、収穫日を予測できる。

予測できるブロッコリーの生育ステージ



ブロッコリーの収穫予測技術で精度の高い実証結果を報告した（16日、鳥取県倉吉市で）

